



TITLE:

質疑應答

AUTHOR(S):

CITATION:

質疑應答. 地球 1928, 9(4): 319-320

ISSUE DATE:

1928-04-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183415>

RIGHT:

第五回 學會 (二月十九日) (西坂小學校に於て)

開館圖法實習指導

森 壽美術

地震計の原理

高見善太郎 (團員森報)

○愛知地理學會創立

昭和三年二月四日、名古屋市中心として愛知縣中等學校に地理科を教授せる人々相會して愛知地理學會を創立した、其中心としては、本學團員耕崎正男氏、岡田鎮太氏、富田司馬氏、夏目易治氏、村山清吉氏等が幹事世話方で、二高女の伊藤君以下二十六名の熱心な會員を網羅してゐる。その第一例會は左の如くで盛會であつた。

昭和三年二月十八日、東田小學校に於て

一、題目 地名の研究

刈谷中學 稻垣健太郎氏

北海道樺太旅行談

第一師範

高橋 寅藏氏

(團員耕崎報)

質疑應答

【問】蒙古の羊毛の種類について

岡山 浦上 生

【答】我國人も近頃蒙古の牧羊事業の研究を始めて、蒙古羊に改良を加へ、自國の羊毛會社をして蒙古羊毛に適應せしむるやうに氣をつけてきた。しかし英米の方が早く支那の羊毛に着眼し、アメリカカンザス商會の如きは極東に毛織物會社の工場を移轉せんとしてゐる位である。蒙古では、

羊は彼等唯一の生活資源で、肉と脂肪と乳とは其主食料であり其毛皮と毛とは天幕又は衣料であり、其糞は沙漠地唯一の燃料である。蒙古の羊毛は東蒙古のものは鐵道で奉天と錦州に集り、北蒙の産は滿洲、哈爾濱、海拉爾に集まり、察哈爾のものは張家口に西套河套地方のものは包頭歸化城に集中されて取引される。

滿蒙を通じて羊數は二千萬頭といふが實數は不明である、大略千五百萬頭以上には上るらしい遼西義縣地方が最も綿羊が盛で、其毛質は最良であるが、其他は劣等である、品質の悪い上に死毛が多いといふ一大欠點がある。さて綿羊毛の區別は左の通りである。

綿羊 春毛 春期に剔毛されるもので品質良好で英米人が買取つてゆく。

秋毛 秋期の剔毛で、毛は強靱なるも粗硬で短い欠點がある。支那人が消費する。

抓毛 綿羊の毛皮を鞣す時、其毛並を揃ゆるため抓子に生ずるもの、品質は良好高價であるといはれる小羊毛、羊絨、山羊の冬期に生ずる棉毛で之を春期に剔きたるもの、品質優良高價なるもの多し。

山羊毛、前者を抓き取つた後に残るもので粗毛である、悉く支那人が消費する。

岡山の浦上君から質問された套毛といふのは、どうも不明

